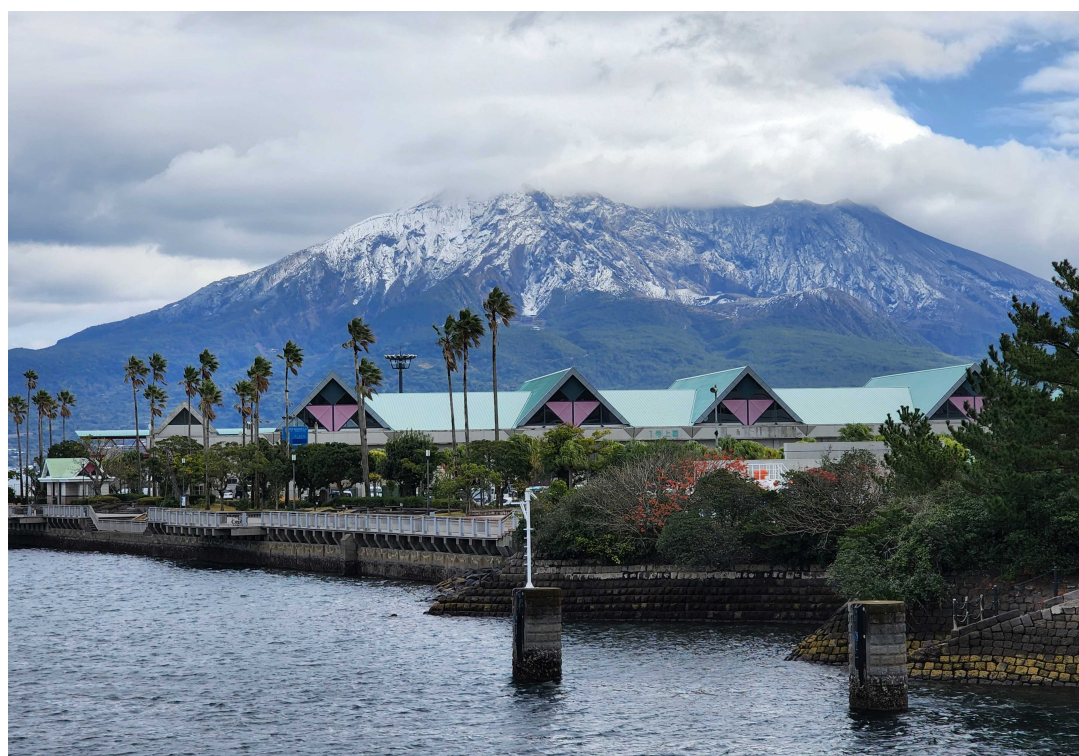


令和4年度
全国学力・学習状況調査結果及び対策
[令和4年4月調査]



令和4年12月
鹿児島市教育委員会

目 次

I	令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方	1
II	令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について	
1	調査の概要	2
2	教科に関する調査結果	2
3	質問紙調査結果	3
4	正答数分布グラフ（小学校）	4
5	正答数分布グラフ（中学校）	5
III	学力調査分析（国語、算数・数学、理科）	
1	調査の結果から見える本市国語科教育の課題について	6
2	調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について	8
3	調査の結果から見える本市理科教育の課題について	10
IV	児童生徒及び学校に対する質問紙調査＜抜粋＞	12

I 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における鹿児島市に関するものです。ついては、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

1 本報告書の構成について

概要は、次のような構成になっています。

I 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方
II 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
1 調査の概要
2 教科に関する調査結果
3 質問紙調査結果
4 正答数分布グラフ（小学校）
5 正答数分布グラフ（中学校）
III 学力調査分析（国語、算数・数学、理科）
1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について
2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について
3 調査の結果から見える本市理科教育の課題について
IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査（抜粋）

2 本報告書の活用について

(1) 調査の目的や内容、各教科の平均正答率、質問紙調査の結果等について知りたいとき

「II 令和4年度『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」（2ページ）を御覧ください。調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問紙調査結果において特徴的なもの等について説明してあります。また、各教科ごとの正答数分布グラフ（4、5ページ）も御覧ください。分布の状況などを見ることにより、詳しく集団の状況を把握することができます。

(2) 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき

「III 学力調査分析」（国語6ページ、算数・数学8ページ、理科10ページ）を御覧ください。小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明しています。改善のポイントについても、小中共通や小学校、中学校別に説明してあります。

(3) 児童生徒の学習状況を知りたいとき

「IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉」（12～21ページ）を御覧ください。児童生徒に対する質問紙については12ページ以降、学校に対する質問紙については16ページ以降を御覧ください。「基本的な生活習慣等に関すること」、「学習習慣等に関すること」等のカテゴリーにまとめています。本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小・中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくしました。また、本市の「よく行った」、「どちらかといえば行った」等の肯定的な回答をした割合と、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合の二つの数値を示し、全国との比較をしています。各学校の結果と比較できるように、表に貴校の結果も記入できる欄を設けています。既に詳細な分析は各学校で進められているところですが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を確認してください。さらに、各カテゴリーごとに設けた□の枠内には、貴校の「分析・対策」を記入することにより、今後の取組を明確にしてください。

(4) 授業改善について知りたいとき

「令和3年度鹿児島学習定着度調査結果～R4年度 鹿児島市みんなで実践～」と「令和2年度改訂版かごんまよか授業」（鹿児島市教育委員会）を活用してください。

II 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

令和4年度の本市の結果は、以下のとおりです。
本調査結果は、学力・学習状況の一部であることを踏まえて御覧ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数			
		本市	県(位)	全国(位)	教科	市	県(位)	全国(位)
小学校	6年生	77校 (錫山小 対象学年 在籍なし)	485校	18,668校	国語	5,069人	13,488人	965,308人
					算数	5,066人	13,493人	965,431人
					理科	5,071人	13,511人	965,761人
中学校	3年生	38校 (黒神中 対象学年 在籍なし)	209校	9,340校	国語	4,562人	12,583人	891,820人
					数学	4,560人	12,593人	891,913人
					理科	4,564人	12,597人	892,585人

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）
〔国語、算数・数学、理科〕
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
 調査問題では、上記の①と②を一体的に問う。
- イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校）
〔生活習慣や学習環境等に関する調査〕

(4) 調査日 令和4年4月19日（火）

2 教科に関する調査結果（平均正答率％）

学校種	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
本市	68 (9.5/14問)	64 (10.2/16問)	68 (11.5/17問)	72 (10.1/14問)	51 (7.1/14問)	51 (10.7/21問)
県	66 (9.3/14問)	63 (10.1/16問)	67 (11.4/17問)	69 (9.7/14問)	47 (6.6/14問)	49 (10.2/21問)
全国	65.6 (9.2/14問)	63.2 (10.1/16問)	63.3 (10.8/17問)	69.0 (9.7/14問)	51.4 (7.2/14問)	49.3 (10.4/21問)

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

中学校数学以外の教科においては、県・全国平均を上回った。中学校数学は、県平均は上回ったが、全国平均をやや下回った。

3 質問紙調査結果（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%）

(1) 児童生徒に対する質問 【質問数 小学校69問 中学校69問】（質問文は一部省略）

読書は好きですか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	77.9	74.5
	県	77.1	73.0
	全国	73.1	68.2

将来の夢や目標を持っていますか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	83.9	69.2
	県	83.7	69.4
	全国	79.8	67.3

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか ※ 「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	59.1	50.6
	県	61.0	53.1
	全国	65.4	63.3

国語、算数・数学、理科の勉強は好きですか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国	本市	58.2	59.4
		県	56.4	60.0
		全国	59.2	61.9
	語算・数理	本市	64.5	61.3
		県	64.9	59.7
		全国	62.5	58.1
	科	本市	76.9	63.6
		県	77.7	64.3
		全国	79.7	66.4

本市において、「読書が好き」「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。
「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国に比べ低い。
「算数・数学を好き」と回答した割合は、全国に比べ高いが、他の教科は低い。

(2) 学校に対する質問 【質問数 小学校82問 中学校80問】（質問文は一部省略）

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	62.4	36.9
	県	63.1	53.6
	全国	39.9	41.7

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか ※ 「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	96.1	100
	県	96.5	100
	全国	84.6	98.5

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか ※ 「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	79.2	84.2
	県	89.1	84.2
	全国	83.4	76.6

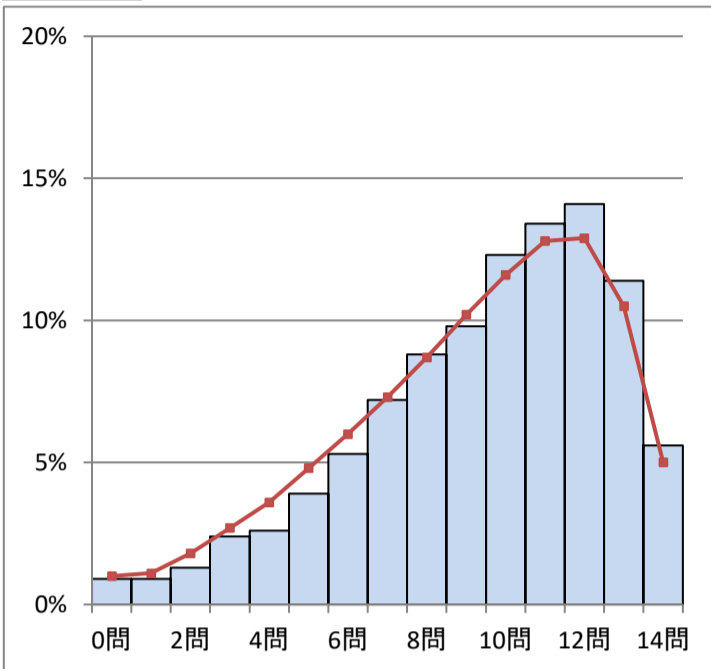
「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、PC・タブレットなどのICT機器を使用した」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は高く、中学校は低い。
「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国に比べ高い。
「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は低く、中学校は高い。

4 正答数分布グラフ(小学校)

(※横軸:正答数、縦軸:児童生徒数の割合 ※棒グラフ:鹿児島市、折れ線グラフ:全国)

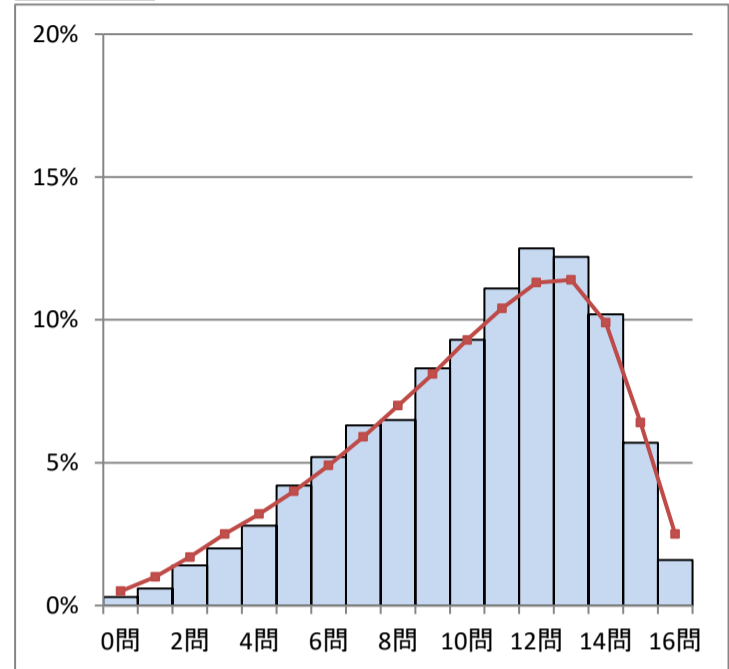
小学校

国語



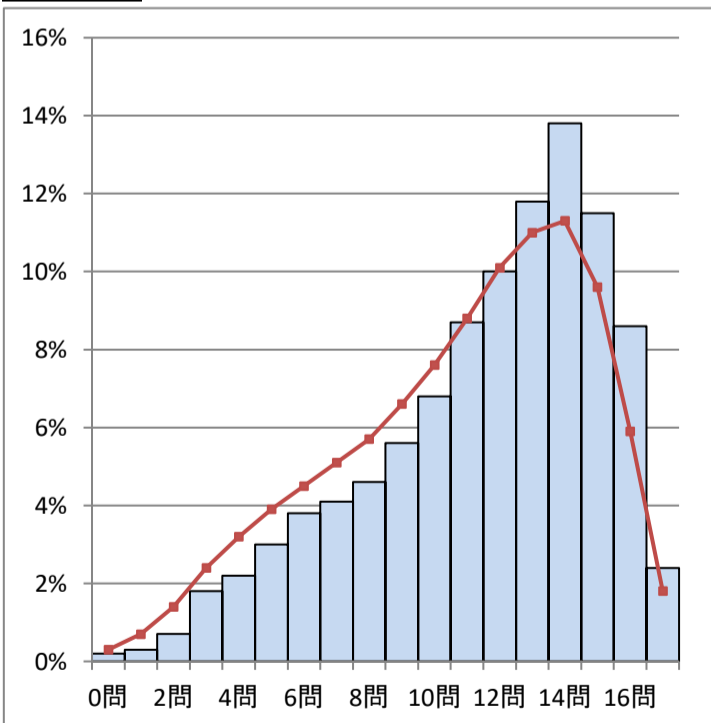
	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.5 / 14	68	10	3.1
全国	9.2 / 14	65.6	10	3.3

算数



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.2 / 16	64	11	3.4
全国	10.1 / 16	63.2	11	3.6

理科



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	11.5 / 17	68	12	3.6
全国	10.8 / 17	63.3	11	3.8

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。

※ [平均値-標準偏差]以上[平均値+標準偏差]以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

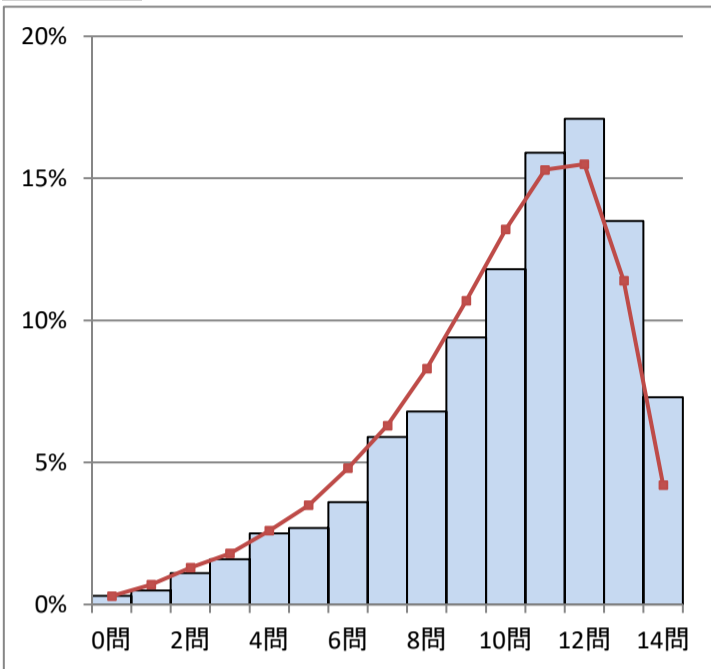
例えば、本市の小学校国語について、平均正答数が9.5、標準偏差が3.1であるので、6.4問(約6問)から12.6問(約13問)の間に、本市の小学6年生の約68%が含まれているといえることがいえます。

5 正答数分布グラフ(中学校)

(※横軸:正答数、縦軸:児童生徒数の割合 ※棒グラフ:鹿児島市、折れ線グラフ:全国)

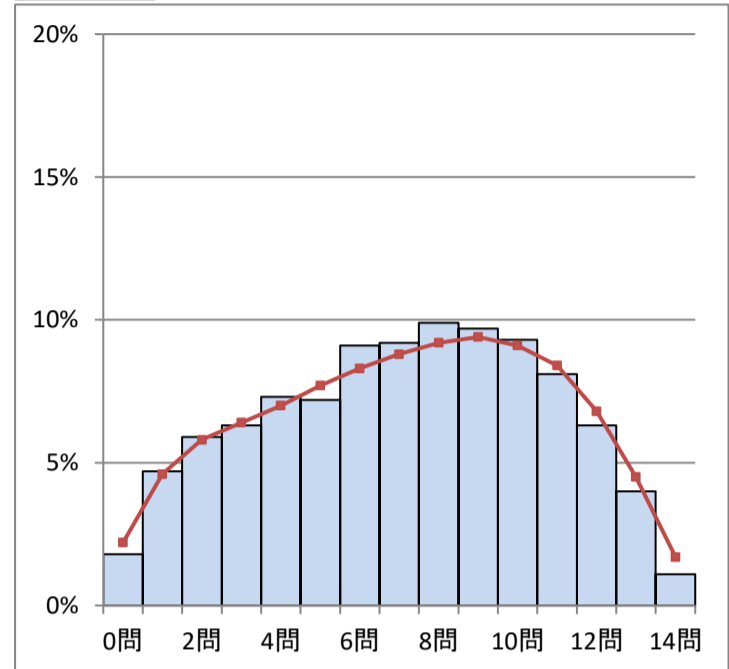
中学校

国語



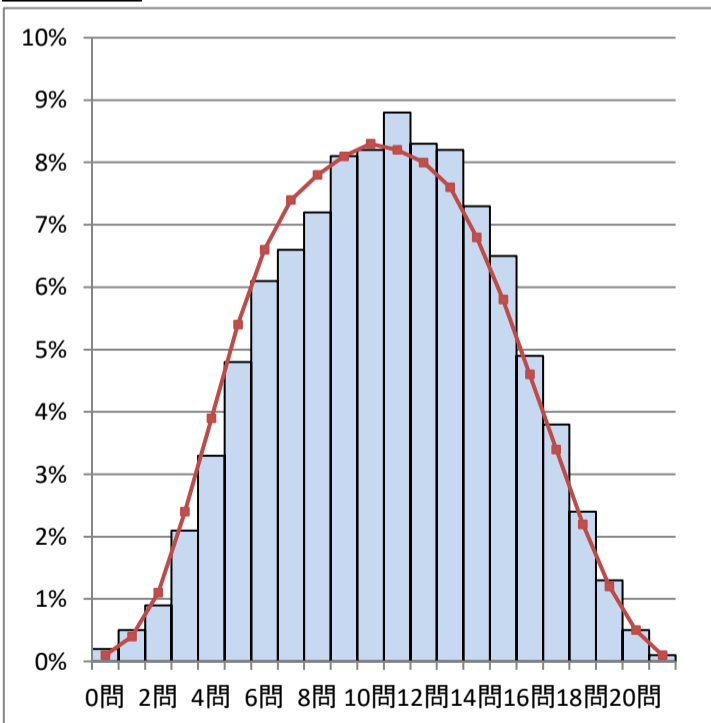
	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.1 / 14	72	11	2.9
全国	9.7 / 14	69.0	10	2.9

数学



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	7.1 / 14	51	7	3.5
全国	7.2 / 14	51.4	7	3.6

理科



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.7 / 21	51	11	4.1
全国	10.4 / 21	49.3	10	4.1

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。

※ [平均値-標準偏差]以上[平均値+標準偏差]以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

例えば、本市の中学校国語について、平均正答数が10.1、標準偏差が2.9であるので、7.2問(約7問)から13問の間に、本市の小学6年生の約68%が含まれているということがいえます。

Ⅲ 学力調査分析（国語、算数・数学、理科）
1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

	課題の見られた問題の出題の趣旨、領域等【正答率、全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしなが ら計画的に話し合い、自分の考えを まとめる (思) 話すこと・聞くこと5・6才 1四【48.3、+0.6】 文章に対する感想や意見を伝え合 い、自分の文章のよいところを見付 ける (思) 書くこと5・6才 3二【40.3、+2.6】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが分かりやすく伝わる ように表現を工夫して話す (思) 話すこと・聞くこと1ウ 1三【58.8、+7.0】 自分の考えが伝わる文章になるよ うに、根拠を明確にして書く (知) 情報の扱い方に関する事項1イ (思) 書くこと1ウ 2三【52.0、+5.5】

(2) 国語科の調査結果
小学校は、「話すこと・聞くこと」が、やや全国の正答率を下回るが、他の領域等は、全国の正答率を全て上回っている。また、問題形式について、選択式、短答式、記述式の全て、全国平均を上回る。評価の観点については、知識・技能、思考・判断・表現の全て、全国平均を上回る。国語文化に関する事項の領域は、平均正答率が8割を超え、全国比+5.1である。記述式の全て、問題形式についても、全国平均を上回る。国語文化に関する事項の領域は、平均正答率が8割を超えている。漢字を正しく書く問題については、平均正答率が8割を超えている。

	小学校	中学校
本市(全国)	68 (65.6)	72 (69.0)
正答率全国比	+2.4	+3.0
本市中央値(全国)	10.0 (10.0)	11.0 (10.0)

(条件)
①【文章2】のよさを書くこと。
②【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
③六十文字以上、百字以内にとりまとめて書くこと。

(問い)
島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことになりました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【小学校 問題3(二)】
《伝え合いの様子の一部》を基に【文章2】のよさを書く問題》

(書き出し)
みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は、

(条件)
①「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
②【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
③書き出しの言葉に続けて、五十文字以上八十文字以内にとりまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

(3) 課題を示す特徴的な問題
【小学校 問題1(四)】
《「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、どのように話すかを書く問題》
四 岡さんは、「話し合いの様子の一部」の□で、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

【本市正答率】40.3% (全国比+2.6)
条件②は満たしているが、条件①を満たしていない誤答が多く見られる。指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。

【本市正答率】48.3% (全国比+0.6)
「選んだ問題点の解決方法」を満たしていない誤答が多く見られる。指導に当たっては、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

【中学校 問題1三】
 《スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く問題》



三 【二人の会話の一部に——線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 【川口さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

【中学校 問題2三】
 《農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える問題》

【コメントの一部】

上野 他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村 私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなります。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化する以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、「スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。」

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、「かきかっこ(「」)」でくくること。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

【本市正答率】52.0% (全国比+5.5)
 根拠を明確にするために、必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。自分の考えが伝わりやすいように書くために、根拠を明確にする指導を行うとともに、引用の際は、かぎ(「」)でくくること、引用元の表現は変更しないことなど、引用の仕方についての指導も必要である。

【本市正答率】58.8% (全国比+7.0)
 音声の働きを意識し、意図的かつ具体的に話し方の工夫を考えることに課題が見られる。実際に声に出して効果を確かめたり、助言し合ったりする指導が必要である。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。」との質問に肯定的に回答した生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られた。「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて、更に指導改善を進めていくことが大切である。

「国語の勉強が好き」と回答した児童生徒は6割弱だが、「国語の勉強は大切」「国語の学習は社会で役に立つ」と回答した児童生徒は9割を超えた。

今回の国語の問題における「解答を文章で書く問題」に対しては、8割を超える児童生徒が「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えており、小・中学校共に全国の平均を上回っている。記述式の問題は、小・中学校共に全国平均を全て上回っており、粘り強く問題に取り組み姿勢が結果に表れたものと考えられる。

(5) 改善のポイント・実践例

【小中共通】

- カリキュラム・マネジメントの推進
 - ・ 明らかにになった課題について、調査の対象学年や教科だけではなく、学校全体で共有し、系統性や教科横断的な指導を意識して、組織的な学習指導の改善・充実につなげる。
 - ・ 定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画等に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。
 - ・ 単元づくりにおいては、指導事項を身に付けるために適した言語活動を位置付け、指導事項を踏まえた評価規準を設定する。
- 児童生徒のつまずきに応じた指導
 - ・ 「解答類型」に表れた一人一人のつまずきを捉え、学習状況の改善を図る。

【小学校】

- ・ 伝え合う経験を積み重ねていくとともに、学習の状況に応じて、教師がペアやグループの伝え合いに参加し、文章のよいところを児童から引き出したり、内容や表現方法を価値付けたりする指導を行う。

【中学校】

- ・ 根拠を明確にするためには、複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられることを生徒に理解させ、引用の仕方や出典の示し方の知識を生かして書くことができるように指導を行う。

番号	質問内容	本市	全国比
小39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。	76.1	-1.2
中39		77.3	-1.9
小49	国語の勉強は好きか。	58.2	-1.0
中49		59.4	-2.5
小50	国語の勉強は大切か。	93.2	-0.1
中50		93.4	+0.2
小52	国語で学習したことは、将来、社会で役に立つか。	91.5	-0.3
中52		90.0	+0.3
小国1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	81.8	+3.8
中国1		80.2	+2.9

2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

(1) 算数・数学科の調査結果

小学校は全国の平均正答率を上回り、中学校は、やや下回った。

項	算数	数学
本市正答率(全国)	64 (63.2)	51 (51.4)
正答率全国比	+0.8	-0.4
本市中央値(全国)	11.0(11.0)	7.0 (7.0)

(2) 本市算数・数学科の課題

- 図形の構成する要素に着目して、図形の性質を見いだすこと、二つの数量の関係に着目し、問題の条件や割合の求め方を基に、何を基準量とし、何を比較量とするかを考えることに課題が見られた。
- 数と式の領域においては、自然数を素数の積で表すこと、関数の領域においては、一次関数の変化の割合の意味を理解していることなど、知識・技能に課題が見られた。

	出題の趣旨 【正答率、全国との比較】
小学校・算数	<ul style="list-style-type: none"> 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。④(4)【54.1、-3.5】 数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。②(3)【21.4、0】 二つの数の最小公倍数を求めることができる。①(2)【78.8、+6.6】 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できる。①(3)【82.5、+6.5】
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"> 自然数を素数の積で表すことができる。①【44.1、-8.1】 一次関数の変化の割合の意味を理解している。④【35.5、-2.4】 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。⑦(2)【46.5、+2.4】 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。⑤【85.2、+1.9】

(3) 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年 問題④(4)】

示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ。

(4) 次に、ひろとさんは、下のプログラムをつくりました。

【ひろとさんがつくったプログラム】

4 cm の直線を引く。	↓
左に 60° 回転する。	↓
3 cm の直線を引く。	↓
左に 120° 回転する。	↓
4 cm の直線を引く。	↓
左に 60° 回転する。	↓
3 cm の直線を引く。	

【ひろとさんがつくったプログラム】を実行すると、どのような図形をかくことができますか。

下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 二等辺三角形
- 長方形
- 平行四辺形
- ひし形
- 正六角形

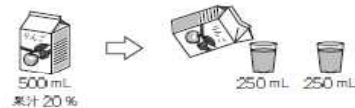
【本市正答率】 54.1% [全国比-3.5]

「ひし形」又は「正六角形」を選択した児童の割合が、全国よりそれぞれ 2 ポイント程度高かった。示されたプログラムから辺又は角の大きさを適切に捉えることが十分にできていないことが考えられる。図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、一つの図形に対して作図の仕方を多様に考えたり、定規やコンパス、コンピュータを用いて作図をする活動を通して、筋道を立てて作図の手順を考えたりする活動が必要である。

【小学校6年 問題②(3)】

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

(3) りんごの果汁が 20% ふくまれている飲み物が 500 mL あります。この飲み物を 2 人で等しく分けると、1 人分は 250 mL になります。



250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上の②にあてはまる文を、下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は 2 倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

【本市正答率】 21.4% [全国比 0]

「1」を選んだ児童の割合が 67.2% であった。全体の量が変化するとそれに応じて割合も変化すると誤って捉えていることが考えられる。これまでの生活経験と割合を計算で求めた結果とを関連付けながら考える活動が大切である。

【中学校3年 問題1】

自然数を素数の積で表す。

1 42を素因数分解しなさい。

【本市正答率】 44.1% [全国比-8.1]

自然数を素因数分解することを通して、整数の性質についての理解が問われる問題であったが、無回答率も12.8%と多かった。素因数分解をすることを通して、小学校算数科で学習した約数や倍数の性質など、整数に対する見方を広げ、整数の性質についての理解を深めることができるように指導することが大切である。また、平方根を含む式の計算を工夫して行うなど、素因数分解することのよさを実感させることが大切である。

【中学校3年 問題4】

変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。

4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

【本市正答率】 35.5% [全国比-2.4]

事象の特徴を的確に捉え、一次関数の変化の割合の意味を理解しているかを問う問題であったが、全国的に見ても正答率が低かった。事象の特徴を的確に捉えるためには、一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表すことができるように指導することが大切である。また、変化の割合は $(yの増加量) \div (xの増加量)$ で求めることができるが、形式的に変化の割合を計算して求めることに偏らないようにするとともに、事象の考察やその表現に用いることができるように指導することが大切である。また、日常生活の具体的な事象に関心を持ち、その事象を分析しようとする態度を育成していくことが大切である。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果】

- ① 算数・数学の勉強は好きですか。
- ② 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき、役に立つと思いますか。

	番号	本市(%)	全国(%)	全国比
算数	①	64.5	62.5	+2.0
	②	93.1	93.3	-0.2
数学	①	61.3	58.1	+3.2
	②	78.9	76.5	+2.4

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

「算数・数学に対する興味・関心」について、小学校は全国を2.0ポイント上回り、中学校は3.2ポイント上回った。

「社会での有用性」について、小学校は全国を0.2ポイント下回り、中学校は、全国を2.4ポイント上回った。

これらのことより、算数・数学の問題発見・解決の過程を基にした授業を通して、今後更に児童生徒が算数・数学を学ぶ楽しさを味わったり、実社会との関連を実感できるようにしたりすることが必要である。

(5) 授業改善のポイント

ア 算数・数学共通

「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探究したりする活動を通して、算数・数学のよさに気付くことができる授業の展開を図る。

イ 算数

- 単に問題を解決することのみならず、自分の考えを数学的に表現し伝え合う活動を通して、問題解決の過程や結果を振り返ったり、新たな問題を見いだしたりして、統合的・発展的に考える授業の展開を図る。
- 日常生活場面を生かした課題を設定し、習得した知識及び技能を活用しながら解決の方法を考えたり、対話的な学びを通してよりよい考えを見いだしたりすることができる授業の展開を図る。

ウ 数学

- 解決の方針(見通し)を立て、根拠を明らかにして、予想した事柄が成り立つ理由を考えさせることや分かったことを数学的に表現させる学習を通して、証明の意義(よさ)を理解させることのできる授業の展開を図る。
- 与えられた問題を解決するだけでなく、問題の条件を一部変えるなど「問題づくり」を通して、取得した知識や技能をより確実に定着させることのできる授業の展開を図る。
- 生徒の誤答を分析し、生徒の誤りを生かした学習を通して、より深い理解につなげることのできる授業の展開を図る。

3 調査の結果から見える本市理科教育の課題について

(1) 理科の調査結果

本市の平均正答率は、全国より小学校で5ポイント、中学校で2ポイント上回った。

平成30年度と比較すると、全国比は小・中学校ともに上がった。

	小学校	中学校
本市正答率	68	51
全国正答率	63.3	49.3
全国比 (H30)	+5 (±0)	+2 (±0)

小学校においては、全ての領域、評価の観点、問題形式別で全国の前年を上回った。

中学校においては、領域別では「粒子」領域が全国比-0.3、問題形式別では短答式が全国比-2.1であり、それ以外は全国の前年を上回った。

(2) 本市理科の課題

- ・ 小学校においては、観察・実験等の情報を分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題が見られた。
- ・ 中学校においては、観察・実験等を別の領域や身近な事象と関連付け、分析して解釈することに課題が見られた。

	出題の趣旨【正答率 全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を他者の気付きの視点で分析し、解釈した内容を記述する。 ②(4) 【41.1 +2.1】 ・ 実験結果を問題解決の視点で分析し、解釈した内容を記述する。 ③(4) 【35.6 +0.5】 ・ 器具の名称「メスシリンダー」を書く。 ②(2) 【89.2 +21.4】 ・ 物質名「水蒸気」を書く。 ④(4) 【80.2 +18.2】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学変化を「エネルギー」領域と関連付けて分析し、図から選択する。 ③(3) 【22.7 -2.1】 ・ 状態変化を身近な現象と関連付けて、しくみが同じ現象を選択する。 ⑦(1) 【33.1 -2.8】 ・ 力を表す矢印とその説明を選択する。 ⑤(1) 【22.5 +7.2】 ・ 未知の節足動物の分類を選択し、その根拠を記述する。 ⑧(3) 【44.2 +5.0】

(3) 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年 ②(4)】

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみしました。

水をこおらせた物は、紅茶にうくのくに、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

【本市正答率】41.1% (全国比+2.1)

児童同士が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気付きを基に新たな問題を見だし、その内容を記述することに課題がある。

【小学校6年 ③(4)】

実験で得た結果を、問題解決の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

【問題】
はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか。

【結果】 (かんの色による水の温度の変化)

かんの色	時間	0分	20分後	40分後
黒		24℃	28℃	32℃
赤		24℃	27℃	29℃
青		24℃	27℃	30℃
白		24℃	25℃	26℃

【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

(4) はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上【結果】を使って書きましょう。

【本市正答率】35.6% (全国比+0.5)

実験で得た結果を分析して、問題に対するまとめの根拠を示すため、「事実」と「事実からいえること」を整理して記述することに課題がある。

【中学校3年 3 (3)】

化学変化と「エネルギー」領域を関連付け、水素を燃料として使うしくみ全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。

図 水素を燃料として使うしくみの例

この 水素を燃料として使うしくみの例 では、水を電気分解して発生させた水素を使い続けるために、おおもとして Y が 必要です。

(3) Y に当てはまる最も適切な言葉を 水素を燃料として使うしくみの例の図の中から1つ選び、書きなさい。

【本市正答率】 22.7% (全国比-2.1)

化学変化に関する知識とエネルギー領域の知識を関連付けて解釈することに課題がある。

【中学校3年 7 (1)】

液体が気体に変化することで温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

グループ1 水が水蒸気になるときの温度変化

素焼きのつぼには小さな穴がたくさんあり、水が表面にしみ出します。

空気が乾燥しているの、しみ出した水は、すぐに熱をうばって蒸発するため、全体が冷えます。

(1) 下線部としくみが同じ現象を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア かき氷をすくった金属のスポーンの温度が下がる

イ ラムネ菓子を食べると化学変化で口の中の温度が下がる

ウ アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる

エ 氷に食塩をかけると0℃より温度が下がる

【本市正答率】 33.1% (全国比-2.8)

状態変化に関する知識を身近な事象と関連付けて解釈することに課題がある。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果 (%)】

(67)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。
(69)	理科の授業で、観察や実験の進め方が間違っていないかを振り返って考えていますか。

	番号	本市	全国	全国比(H30)
小学校	(67)	76.8	78.0	-1.2(+0.1)
	(69)	69.8	72.2	-2.4(-0.5)
中学校	(67)	62.8	64.5	-1.7(+1.6)
	(69)	62.4	68.1	-5.7(-4.6)

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合)

「(67)観察や実験の計画」「(69)観察や実験の振り返り」については、小・中学校どちらも全国を下回った。前回と比較しても、全国との差が大きくなっており、改善が必要である。

(5) 授業改善のポイント

ア 小・中学校共通

- 観察・実験を授業の柱とし、児童・生徒が主体となる問題解決的な学習への授業改善を継続する。その際、以下のことを重視する。
- ・ 既習の知識や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する。
 - ・ 自らの予想や仮説に基づいて検証計画を立案する。
 - ・ 自らの予想や仮説、検証計画の妥当性について事実に基づいた考察を通して振り返る。

イ 小学校

単元の中で記述する活動に重点をおく時間を明確に位置付ける。その際、自分や他者の気づきを基に比較の考え方を働かせることや、「原因と結果」や「事実と考え」を区別して整理すること、結論とその根拠を明確にすること、が大切である。

ウ 中学校

観察・実験を柱とする問題解決的な学習を重視することや、単元の中で記述する活動に重点をおく時間を位置付けることに加えて、習得した知識及び技能を既習の他領域の知識及び技能と関連付けて整理することや、導入時だけでなく単元のまとめにおいても、身近な事象と結び付けて整理することが大切である。

IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問紙から特徴的なものを抜粋しました(単位は%)。

空欄に貴校のデータを書き込み(入力)、全国や本市と比較してください。

児童生徒に対する質問紙調査結果の空欄には、貴校の割合(%)を、学校質問紙調査結果の空欄には、①～④等の回答を書き込み(入力)、比較しましょう(エクセルデータをSee-Smile(配布物管理)でも配信します。)

□の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう(全て記入する必要なく対策の重点化)。

- ・ 上段は、「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答した割合
下段は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合
- ・ ↑は、昨年度と比較し、2ポイント以上上回っていたもの、↓は、2ポイント以上下回っていたもの(上段のみ)
- ・ ※は、昨年度、質問項目になかったもの

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

基本的な生活習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
1 朝食を毎日食べていますか		94.5	0.1		93.1	1.2
		85.4	0.5		82.9	3.0
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		↑ 81.5	0.0		82.6	2.7
		36.5	-4.2		36.5	-0.5
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		↑ 90.9	0.5		93.3	1.1
		55.1	-1.7		58.7	1.9
4 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか		↑ 75.1	3.6		72.9	3.4
		39.3	-0.1		30.8	-1.4
5 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合		↑ 39.7	-10.5		↓ 34.9	-15.4
		21.0	-9.7		16.7	-13.1
※6 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く) ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合		23.8	-8.7		34.7	-17.3
		12.5	-7.2		15.6	-13.9

【分析・対策】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
7 自分には、よいところがあると思いますか		↑ 77.8	-1.5		↑ 77.4	-1.1
		32.9	-6.5		30.8	-5.2
※8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		83.5	-3.6		84.8	-1.8
		36.0	-10.3		31.0	-8.9
9 将来の夢や目標を持っていますか		83.9	4.1		↓ 69.2	1.9
		66.0	5.6		43.9	4.1
10 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか		↑ 86.6	-0.6		↑ 86.8	0.2
		37.8	-1.0		35.8	-1.0
11 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか		70.8	-1.7		67.1	0.0
		24.7	-2.9		18.7	-2.7

12	人が困っているときは、進んで助けていますか		88.8	-0.1		90.3	1.9
			42.6	-2.3		39.9	-0.7
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		97.2	0.4		96.6	0.2
			83.8	-0.1		85.3	2.7
※14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか		66.2	-1.9		66.0	-0.6
			32.8	-2.7		29.2	-3.3
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか		95.5	0.4		96.1	1.1
			75.2	0.1		75.8	2.3
16	学校に行くのは楽しいと思いますか		↑ 87.6	2.2		↑ 84.8	1.9
			54.1	2.4		47.2	1.4
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか		↑ 75.4	1.9		↑ 78.1	1.2
			30.3	-0.1		29.8	-1.6
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか		94.9	0.9		95.0	1.3
			74.1	1.5		67.9	1.7

【分析・対策】

学習習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※19 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（複数選択） ◆上段は、先生に聞くと回答した割合 中段は、友達に聞くと回答した割合 下段は、家族に聞くと回答した割合		32.9	-2.7		25.6	-5.8
		65.3	3.7		67.3	0.5
		84.5	4.1		48.3	2.1
20 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）		↓ 72.5	1.4		↓ 60.0	1.5
		24.7	-2.8		15.6	0.2
21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、1時間以上と回答した割合 下段は、2時間以上と回答した割合		↓ 64.8	5.4		↓ 76.1	6.6
		25.3	0.2		41.4	6.2
22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合		↓ 26.3	0.1		↓ 53.4	8.5
		11.4	-2.2		22.9	2.3
23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ◆上段は、30分以上と回答した割合 下段は、1時間以上と回答した割合		↓ 39.6	3.2		34.2	6.9
		17.6	0.3		14.0	1.6
24 【小学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） 【中学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） ◆上段は、101冊以上と回答した割合 下段は、201冊以上と回答した割合		29.9	-5.4		28.4	-5.1
		12.7	-3.4		12.9	-3.3
25 新聞を読んでいますか		12.1	-1.7		8.1	-1.3
		3.9	-0.9		2.5	-0.5
※26 読書は好きですか		77.9	4.8		74.5	6.3
		44.8	2.9		43.4	5.5

【分析・対策】

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※27 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか		65.7	0.6		54.7	-0.3
		27.2	-0.9		19.1	-2.2
※28 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）		28.8	-1.8		16.1	-5.0
		13.3	-1.8		7.0	-2.9
29 今住んでいる地域の行事に参加していますか		↓ 53.4	0.7		↓ 36.9	-3.1
		24.2	0.8		11.9	-2.4
30 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか		50.9	-0.4		↓ 36.1	-4.6
		16.7	-0.9		7.9	-3.2
放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択） ◆家で勉強や読書をしていると回答した割合【小学校】 学校の部活動に参加していると回答した割合【中学校】		56.7	4.5		67.5	-6.4
放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加していると回答した割合【小学校】 家で勉強や読書をしていると回答した割合【中学校】		5.1	0.4		50.1	2.2
地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）と回答した割合		3.6	0.2		0.9	-0.9
※31 学習塾など学校や家以外の場所で勉強していると回答した割合		19.6	-4.5		35.8	-1.0
習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしていると回答した割合		36.0	-0.3		15.7	-4.1
スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしていると回答した割合		43.3	0.6		26.0	-1.3
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしていると回答した割合		79.5	-2.6		86.4	-1.6
家族と過ごしていると回答した割合		72.8	0.3		62.9	-0.5
友達と遊んでいる		60.1	-1.5		50.5	-4.1

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
32 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合 ※令和3年度においては、「ほぼ毎日」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の選択肢であったため、令和3年度との比較はできません。		54.2	-4.0		24.6	-26.3
		21.2	-5.5		8.2	-13.4
※33 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など） ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		40.4	-3.5		12.2	-25.0
		10.5	-3.8		3.2	-9.1
※34 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		22.4	-0.1		5.7	-12.1
		5.7	-0.7		1.4	-3.6
※35 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		20.8	-0.9		5.4	-9.6
		5.4	-1.5		1.8	-2.9
36 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか		94.5	0.1		↓ 91.1	-1.5
		61.9	-3.6		52.8	-3.9

37	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか ◆上段は、1時間以上と回答した割合 下段は、2時間以上と回答した割合	18.2	-3.4		↓ 14.4	-3.3
		6.4	-2.8		4.0	-2.3

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
38	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.1	-6.3		↓ 50.6	-12.7
		23.9	-3.2		14.7	-7.8
39	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.1	-1.2		77.3	-1.9
		26.6	-3.9		26.9	-4.3
※40	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	70.7	-1.5		63.8	-3.6
		25.0	-2.9		16.9	-5.1
※41	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	63.1	-5.3		56.7	-10.5
		23.1	-5.2		15.8	-8.4
42	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	80.9	1.2		72.5	-2.8
		37.6	0.9		18.7	-4.1
43	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	↑ 80.2	0.1		79.0	0.3
		35.3	-2.4		31.8	-2.3
44	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.2	1.0		↑ 76.2	1.5
		33.1	-0.1		25.1	-0.5

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	76.1	3.4		↓ 68.1	-4.0
		34.8	3.1		23.5	-4.9
46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	68.4	-5.1		68.6	-8.2
		23.2	-7.3		20.2	-8.8
47	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	71.6	-2.2		68.5	-3.2
		27.3	-3.7		20.4	-4.9
48	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	↓ 80.5	0.5		↓ 85.8	0.3
		42.6	0.1		42.7	-0.3

【分析・対策】

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

生徒指導等

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
7 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか		↑ 89.6	2.4		94.8	-0.8
		31.2	-10.8		63.2	-1.9
8 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか		96.1	11.5		100.0	1.5
		27.3	6.9		44.7	-6.2
9 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか		↑ 98.7	2.5		↓ 92.1	-2.2
		48.1	-0.4		31.6	-11.9
10 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか		100	1.3		↓ 97.4	-0.7
		49.4	-9.6		50.0	-5.2
※11 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか		81.8	-6.6		100.0	5.1
		31.2	-19.3		60.5	-4.2
【分析・対策】						

学校運営に関する状況

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※14 ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか		98.7	3.7		100.0	5.7
		48.1	8.4		34.2	-3.6
※15 ICTを活用した校務の効率化を通じて、次の業務は軽減しましたか。 （1）児童の出欠・遅刻に関する事務 （2）家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど） （3）学校からのお知らせ（学校通信等） （4）教職員等会議に関する事務 （5）教職員の書類作成等その他の事務		67.6	4.1		86.8	26.9
		67.6	6.8		81.6	19.6
		65.0	14.7		71.0	18.2
		68.8	-2.7		65.8	-1.9
		92.2	18.5		89.5	20.0
16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか		100	5.2		92.2	0.9
		39.0	11.1		21.1	-4.8
17 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか		↑ 100	5.8		↓ 86.9	-6.4
		28.6	-0.7		13.2	-15.6
18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか		97.4	5.1		↓ 76.3	-6.0
		32.5	0.5		7.9	-15.0
【分析・対策】						

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
23 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか		↑ 93.5	6.3		↓ 89.5	1.6
		19.5	0.2		15.8	-3.4
24 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか		↑ 76.6	1.5		↑ 76.3	-4.4
		10.4	-1.4		18.4	3.6
25 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか		↓ 81.8	-2.0		↓ 89.5	2.2
		22.1	4.8		21.1	0.5

26	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか	↑	84.4	3.5	↑	92.1	5.9
			14.3	-0.8		15.8	-4.5
27	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	↓	88.3	-2.4	↓	94.7	-1.3
			26	-5.4		36.8	-5.5
※28	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか		96.1	-0.7		100.0	2.9
			35.1	0.6		15.8	-15.6
29	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	↑	92.2	2.4	↑	94.8	7.8
			32.5	0.9		23.7	-4.1
30	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	↑	93.5	5.5	↓	81.6	-6.6
			27.3	6.1		13.2	-7.5
31	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	↓	79.2	-4.2		84.2	7.6
			15.6	-1.0		10.5	-2.9
※32	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか		83.1	0.5		84.2	3.8
			18.2	-3.5		10.5	-7.2

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
33	調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか		94.8	4.0		89.5	-0.1
			31.2	-1.2		21.1	-14.3
34	調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	↑	100	6.2	↑	100.0	6.7
			27.3	-9.8		23.7	-11.9
35	調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか		94.8	2.2	↓	94.8	3.1
			24.7	-6.7		13.2	-17.4
36	調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか		98.7	1.8		97.4	-0.3
			39.0	1.4		26.3	-19.8

【分析・対策】

学習評価

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
37	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしましたか		94.9	-2.1	↑	97.4	0.8
			46.8	7.8		23.7	-12.1
38	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をしましたか	↓	80.5	-3.6	↓	89.5	-2.1
			24.7	2.7		13.2	-21.2

【分析・対策】

国語科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
39 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか		↓ 90.9	-3.5		↑ 100.0	2.5
		32.5	3.5		31.6	-9.9
40 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか		↑ 98.7	3.3		↑ 94.8	1.4
		33.8	-0.6		23.7	-14.0
41 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか		↑ 94.8	2.1		↑ 97.4	1.3
		24.7	-4.5		34.2	-10.5
42 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか		↑ 96.1	0.5		↓ 89.5	-6.3
		29.9	-4.5		26.3	-15.3

【分析・対策】

算数・数学科の指導における個に応じた指導に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※43 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度に、算数〔数学〕の授業における少人数による指導を行いましたか		42.9	14.1		42.1	15.9
		29.9	7.7		34.2	12.4
※44 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度に、算数〔数学〕の授業における習熟度に応じた指導を行いましたか		36.4	14.0		36.8	16.3
		18.2	2.3		26.3	10.1
※45 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度に、算数〔数学〕の授業におけるティーム・ティーチングによる指導を行いましたか		23.4	-1.5		36.8	7.8
		13.0	-3.0		18.4	-1.0

算数・数学科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
46 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか		↑ 87.0	2.7		↑ 97.4	14.6
		19.5	1.6		13.2	-4.3
47 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか		↑ 94.8	2.4		↑ 89.5	10.8
		31.2	1.5		15.8	-2.0
48 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか		↑ 100.0	2.9		↑ 100.0	3.0
		42.9	2.1		42.1	-0.6
※小49 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか ◆上段は、実施したと回答した割合 下段は、実施しなかったと回答した割合		11.7	-3.7			
		88.3	3.8			

【分析・対策】

理科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小50 ※中49		93.5	-0.4		94.7	0.3
		32.5	4.4		26.3	-4.3
※小51 ※中50		94.8	0.6		97.4	0.6
		33.8	2.9		31.6	-10.5
※小52 ※中51		98.7	4.9		78.9	-0.3
		35.1	-1.7		18.4	-6.0
※小53 ※中52		100.0	2.9		94.8	0.2
		40.3	-2.4		23.7	-19.2
※小54 ※中53		54.5	9.7		97.4	6.2
		42.9	-8.3		47.4	0.9
※小55		76.6	23.0			
		23.4	22.9			
【分析・対策】						

ICTを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小56 ※中54		94.8	8.6		81.6	-6.1
		80.5	13.3		47.4	-21.0
小57 中55		↑ 97.4	2.7		↑ 92.1	1.3
		64.9	9.1		42.1	-8.2
小58 中56		↓ 45.5	-23.8		↑ 47.4	-21.9
		20.8	-12.9		21.1	-14.8
※小59 ※中57		87.0	1.9		60.5	-20.7
		61.0	2.8		26.3	-29.2
※小60 ※中58		74.1	12.2		42.1	-14.1
		28.6	7.4		13.2	-9.4
※小61 ※中59		62.4	22.5		36.9	-4.8
		23.4	9.7		13.2	-1.4
※小62 ※中60		65.0	19.6		34.3	-9.8
		28.6	6.0		21.1	-0.8
※小63 ※中61		48.1	16.8		26.3	-1.5
		18.2	6.9		7.9	-2.3

※小64 ※中62	前年度に、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか ◆上段は、月1回以上と回答した割合 下段は、週1回以上と回答した割合		5.2	1.4		5.2	1.6
※小65 ※中63	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか		52.0	1.7		36.9	-12.5
※小66 ※中64	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ◆1段は、毎日持ち帰って、毎日利用させている 2段は、毎日持ち帰って、時々利用させている 3段は、時々持ち帰って、時々利用させている 4段は、持ち帰らせていない 5段は、持ち帰ってはいけないこととしている 6段は、臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることしていると回答した割合 ※6段は新規		↑ 3.9	-10.3		0.0	-17.0
※小67-1 ※中65-1	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		1.3	-11.9		0.0	-14.6
※小67-2 ※中65-2	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑ 57.1	17.6		↑ 21.1	-9.1
※小67-3 ※中65-3	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↓ 9.1	-2.0		↓ 47.4	34.2
※小67-4 ※中65-4	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↓ 0.0	-3.1		↓ 5.3	1.5
※小67-5 ※中65-5	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		28.6	9.7		26.3	5.2
※小67-1 ※中65-1	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		9.1	-3.3		7.9	-6.2
※小67-2 ※中65-2	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		3.9	-2.2		2.6	-5.5
※小67-3 ※中65-3	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		9.1	-3.9		5.3	-4.2
※小67-4 ※中65-4	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		5.2	0.6		0.0	-3.8
※小67-5 ※中65-5	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		14.3	-6.8		7.9	-7.7
※小67-1 ※中65-1	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		7.8	0.3		2.6	-4.0
※小67-2 ※中65-2	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		18.2	-4.7		23.7	-1.0
※小67-3 ※中65-3	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		9.1	-4.4		2.6	-12.8
※小67-4 ※中65-4	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		24.7	-6.2		21.0	-6.5
※小67-5 ※中65-5	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		10.4	-6.0		2.6	-13.1

【分析・対策】

特別支援教育に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小68 中66		97.4	3.1		↓ 97.3	4.5
		50.6	8.9		44.7	1.7

【分析・対策】

小学校教育と中学校教育の連携に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小69 中67		↓ 65.0	12.3		↑ 76.4	15.3
		18.2	3.3		21.1	-1.1
小70 中68		↓ 48.1	-0.1		↓ 57.9	-0.1
		19.5	4.6		18.4	-4.1
小71 中69		↑ 52.0	7.5		↓ 47.4	-0.2
		10.4	-1.5		5.3	-9.8

【分析・対策】

家庭学習に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小77 中75 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか		100	3.5		97.4	3.8
		63.6	14.9		42.1	3.9
※小78 ※中76 調査対象学年の児童生徒の保護者に対して、前年度までに、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか		98.7	6.3	↓	97.3	10.6
		50.6	13.2		36.8	10.6
小79 中77 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか		96.1	6.4	↓	86.8	-0.1
		41.6	10.8		28.9	3.6

【分析・対策】

全国学力・学習状況調査の結果等の活用に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小80 中78 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか		↑ 100	4.1		↑ 97.4	4.7
		40.3	10.4		23.7	0.1
小81 中79 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか		100	8.3		100.0	11.5
		39	9.3		26.3	2.7
※小82 ※中80 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）		98.8	12.6		97.3	16.7
		49.4	29.7		36.8	16.9

【分析・対策】